

しろやま



病院理念

城山病院は患者さまのために存在します

2024年11月号

医療法人春秋会 城山病院

大阪府羽曳野市はびきの2-8-1

TEL 072-958-1000

編集・発行 情報システム課

Vol. 89



SPECIAL

ロボット手術による前立腺がん治療



ロボット手術センター
泌尿器科医長
堤 岳之 医師

前立腺がんは世界で140万人が罹患し、長寿化が進む中、さらに罹患者が増加する可能性のある疾患です。

これまで積極的治療を行えなかった高齢者の患者様にも、身体に負担の少ないロボット手術が行われるようになり、今やこれが治療の標準になりつつあります。

4月に当院に赴任した堤医師に話を聞きました。

初めに

私の専門は前立腺がんで、世界で最も優秀ながんセンターの一つであるニューヨークにあるメモリアルスローン・ケタリングがんセンター、そしてハーバード大学に3年間留学し、一昨年帰国しました。アメリカでは主に前立腺がんの遺伝子治療の研究を行いました。

喫煙など何らかの原因で遺伝子が損傷し、その修復過程でがん細胞ができることはすでに判っています。前立腺癌患者の1～2割に生まれながら遺伝子損傷を修復するある特定の遺伝子に変異があり、その遺伝子の変異部分にアプローチし、がんを治療する遺伝子治療についての研究を行っていました。

アメリカではこの遺伝子治療と同じようにロボット手術が盛んに行なわれており、日本でも一般的になりつつあります。

特に前立腺がん治療においては大変有用であり、日本でロボット手術の保険適応が最初に認められたのは前立腺がん治療でした。

当院でも2022年からダヴィンチを導入し、ロボット手術を行っています。そのメリットを次に話します。

前立腺がんにおけるロボット治療のメリット

前立腺がんの治療は前立腺全摘除術、ホルモン治療、放射線治療などがあります。前立腺全摘除手術は尿道を一旦切断し

て膀胱と縫合するため、合併症として尿路狭窄や排尿障害、尿漏れが起こりやすくなります。その原因の一つとして骨盤内が狭く、従来の腹腔鏡下手術では作業スペースが限られてしまい、尿道周囲や骨盤底の筋肉の温存が難しいことがあげられます。

しかし、ロボット手術では体内に挿入する鉗子の自由度が高く手振れもなく、またカメラも細かい組織まで見えるため、狭いスペースでも非常に繊細な操作が可能です。

そのため、周辺組織の損傷や出血が格段に少なくなり、縫合不全も防げるため合併症の発生が大きく軽減します。

また、これまでの前立腺全摘除術は患者様が高齢で術後の生活で自立が難しいと判断された場合は行わないケースがほとんどでしたが、ロボット手術導入によって合併症が軽減されるため、高齢者の患者様にも手術ができるようになりました。

手術時間は約4時間、入院期間は10日前後ですが、手術翌日から歩行できるなど離床も早く、高齢者の患者様でも社会復帰が早くQOL(生活の質)低下が防げます。

早期発見が重要

私が一番伝えたいことは早期発見が大切だということです。この疾患は全ての癌種の中でも男性で最も多い癌ですが、早期治療なら予後(進行や治療結果、生存確率などの見通し)が非常に良い。

しかし、初期症状が乏しく、知らない間に進行し、排尿困難や頻尿などの症状が出てきた時には、骨や肺に転移していることが多くあります。

このため、50歳以上の男性は※PSA検査を受けることを啓発しています。「前立腺がんの治療をすると尿が漏れる」は昔の話。ぜひ、早期発見、早期治療を受けてください。

※PSA検査とは血中にある前立腺の特異的なたんぱく質であるPSA値を測定する検査。

市民公開講座を開催しました！

2024年10月19日(土)14:00-16:00に市民公開講座をLICはびきのMホールで開催いたしました。

当日は、あいにくの天候に関わらず多くの方にご来場いただきました。村上先生、新田先生による動画を使用した分かりやすい説明により、参加者からは、「医療セミナーには初めて参加しましたが、とても面白かったです!」「ダヴィンチを使用した手術を受けましたが、このような感じだったのですね!」など、好意的なお言葉をいただきました。

当院では、今後もこのようなイベントを実施していく予定です。LINEにご登録いただきますと、イベント情報も発信予定です。是非、ご登録をお願いいたします。

演者の先生



理事長
黒岩敏彦



ロボット手術センター長
消化器・乳腺センター長
新田 敏勝



整形外科部長
人工関節・膝関節機能
再建センター長
村上友彦



LINE登録
QRコード



がんサロン「白鳥の会」を開催しました

第28回の白鳥の会は、「がんにおけるリハビリと栄養の関係」というテーマで、理学療法士の古賀さん・管理栄養士の山元さんのお二人に講演を行って頂きました。リハビリを行うためには栄養が必要で、栄養をうまく活用するためにリハビリが必要という、両軸になっていることも説明され、参加者の方々も聞きながら聞き入っていました。

参加者の方からは、術後の体調管理として、食事の見直しや体重を減らすことを心がけていたが、具体的にどんな栄養をどれくらい摂取すればいいのか気になって参加しましたという意見も頂きました。病気がきっかけで、普段の食生活や日常生活を見直す方もいらっしゃると思います。

次回も、「がんにおけるリハビリと栄養の関係」第二弾を開催します。第一弾に参加しなくてもわかる内容になっています。ぜひ、ご参加ください。

次回のがんサロンは、11月26日(火)です。



がん検診:PET-CT 検診の御案内

がん検診:PET-CT ~ 低侵襲/早期にがんを発見します ~
当院では2023年5月にGE社製「Discovery IQ 2.0」を導入しました。以前のPET-CT装置に比べて画像の質が向上し、撮影時間も短縮されました。がん細胞は正常細胞と比べて、たくさんブドウ糖を細胞内に取り込む性質があります。PET検査ではブドウ糖に放射線を出す元素を組み合わせた「FDG」という薬剤を注射した後、「FDG」が通常より多く集まっている細胞(がん細胞)があるか無いかを全身を通して画像化して調べる検査です。

全身のがん探索および転移探索や病期判定、治療経過判定等には有用な検査です。(ほとんどが保険診療可能です)

また、最近では健康診断での血液検査や検診(市販等)のみで「陽性判定」や「要精密検査」の結果が出た方に対して、全身一度にがんの有無をスクリーニングできる二次検査としてもPETは有効活用されています。(自由診療となります)

予約申し込み:072-958-1000「PET-CT検診申し込み」

2023年度 病院指標を公開しました

この度、城山病院ホームページに「令和5年度 病院指標」を公開しました。

病院指標の公開は、厚生労働省の通知により毎年 10月1日に必ず公開するように義務付けられている制度になります。

また、公開内容はDPCと呼ばれるデータを用いた全国統一の定義と形式に基づいた指標を作成します。

患者様が指標を見る事でも当院の特徴や急性期医療の現状を理解して頂くことを目的とされている制度になります。

ご興味のある方は当院のホームページの「病院指標」をご覧ください。

城山病院 病院指標



QRコードより
ご覧いただけます

しろやまハイブリット研修会 (医療従事者向け)

ステップアップ心電図
~アレルギー克服! (初級~中級)~

去年に続き、今年は初級から中級の方に向けてお話しします。

日程:2024年11月1日(金) 17:30~18:15

ミーティングID:863 8792 5284

パスコード:754738

ZOOM参加
QRコード



人工呼吸器関連肺炎(VAP)を防ごう!
~根拠に基づいた看護ケア~

人工呼吸器を装着することで同時に起こる大きなデメリット、それがVAPです。人工呼吸器にまつわる看護ケアを根拠を交えてお話しします。

日程:2024年11月27日(水) 17:30~18:15

ミーティングID:874 0089 0295

パスコード:779767

ZOOM参加
QRコード

